

三年ねたろう

(日本の昔話)

昔、ある村に、三年もねてばかりいる男がいました。村の人たちは、「三年ねたろう」とよんで、あきれていました。

その年、村には雨がふらず、田んぼはからからにかわいていました。

ある朝、ねたろうがむっくりと起きあがり、山の上へのぼっていききました。そして、大きな岩を力いっぱいおして、谷へ転がしました。

岩は、谷川をせき止めました。せき止められた水は、田んぼのほうへ流れていきました。

ねたろうは、ねている間、ずっと村に水を引く方法を考えていた
ほうほう

村の人は、ねたろうにうれいを言いました。田んぼでは、また、いねが青々とそだつようになりました。

1 村の人たちは、男を何とよんでいましたか。

2 その年、田んぼはどうなっていましたか。

ア
水があふれていた。

イ
からからにかわいていた。

雪でうまっていた。

3
ねたろうは、何を谷へ転がしましたか。

大きな

4 ねたろうは、ねている間、何をしていたのですか。